

「“ビビン（ごちゃ混ぜ）の会” から始めよう。」

社会人 稲垣瑞恵

先日私にとって2回目の「ビビンの会」に参加しました。

前回参加した時は初めて参加するのでどのような会なのか、内容もよく把握しないまま参加しましたが、今回はグループリーダーの一員として参加者のサポートをさせていただきました。

私は時々日韓アジア基金でニュースレターやイベントのボランティアとしてお手伝いしていますが、ビビンの会は参加者同士の交流会なのでボランティアの時と雰囲気が全く違います。当日は以前ニュースレター発送のボランティアに参加された方が何人か来られており、ボランティアの時には知らなかったお話や人となりを知ることができてそれも楽しかったです。また、留学生や日本で働いている海外の方もたくさんおられ、私のグループでは中国・オーストラリア・タイ・ミャンマーの方がいて、中には日本人でもワーキングホリデーでオーストラリアに滞在経験のある方もいました。グループディスカッションでは自分たちの国のオススメスポットを紹介しようということになりました。

話し合いの中でもちょっとした文化の違いや食べ物のお話で盛り上がり、非常に楽しかったです。発表方法についても全員でアイデアを出し合って、協力することができたので発表本番でもスムーズに進みました。



工夫をこらしたテーマ発表

日頃こんなにいるんな国や職場でも出会うことのない方たちと、身近なテーマで話をするのがないし、それをまた他の人に向けて発表するというのが更に新鮮でした。他のグループの発表も同じ時間・同じ場所で準備したのに、全く違う内容になっていて飽きが来ず、非常に興味深かったです。

発表が終わった後の飲食しながらの交流会では真面目な話から他愛も無い話までいろんな話をして盛り上がりました。

交流会が終わって、翌日大事な試験があるから帰らなければならない留学生たちも「もっと話がしたい！」という雰囲気で帰りたくなさそうだったのが非常に印象的でした。

ビビンの会は参加者の方々に楽しんで居心地良く過ごして貰おうというもてなしの気持ち
がスタッフ側にも一層あり、それを感じる良い交流会だと思います。

これからも年代・性別・国籍・職業・出身地にこだわらず、いろんな人たちがどんどん交
流する場のスタートとして“ごちゃ混ぜ(ビビン)の会”が続いていくといいなと思います。